

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	4677600092
法人名	社会福祉法人 幸伸会
事業所名	グループホーム 青山荘
訪問調査日	平成22年1月8日
評価確定日	平成22年2月9日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4677600092
法人名	社会福祉法人 幸伸会
事業所名	グループホーム 青山荘
所在地	肝属郡錦江町城元3724-1 (電話)0994-22-3389
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成22年1月8日

## 【情報提供票より】(平成21年12月15日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成14年3月20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	5.8 人

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての	1階～	1階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	800 円	

## (4)利用者の概要(12月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.1 歳	最低	77 歳	最高	100 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	大根占医院	岩城歯科医院
---------	-------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町の運動公園に近く、同一法人の特別養護老人ホームなどと同じ敷地に建てられたホームである。入居者はホーム内で思い思いに過ごしたり、特養やデイサービスでの交流会をはじめ、地域の行事にも出向くなど、様々な活動に参加して地域との交流を深めている。職員の定着率が高く、なじみの関係でのケアが継続されているため、入居者にとって大いに安心できる環境となっている。また、災害対策においても、法定訓練以外に毎月自主防災訓練を実施しており、全職員が常に危機意識を共有して、入居者の安全確保に努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	非常災害時に向けた備蓄について、地元消防署とも協議し、必要最小限の食料・飲料水・リネン等を備えている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価および外部評価を、ケアの内容を見直す機会として理解している。全職員で評価を行い、ミーティングで内容をまとめて共有し、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に1回開催される運営推進会議では、入居者、御家族、地域住民代表、行政担当者などから様々な情報提供やホーム運営に対しての意見が出され、新たな取り組みへと活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームの入り口に意見箱を設置し、日頃から意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。また、面会や交流会の際は、職員の方から積極的に声をかけて御家族の意見を求めるように心がけている。また、日常生活についての個別報告書やホーム便りを郵送しているほか、面会時を利用して個別の報告も行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣に民家がないため、日頃は敷地内のデイサービスや特別養護老人ホームの方々との交流を行っている。また、地域の行事には積極的に出向き、商店街での買い物などでなじみの関係を作っている。

## 2. 評価結果詳細

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員全員で話し合い理念を作り上げており、入居者がもうひとつの我が家で、その方の生活リズムで暮らせることを大切に支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の唱和を行ったり、実施しているケアのあり方が理念に沿ったものであるかを、現場の事例を通して職員会議の際に話し合うなど、職員間での共有に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣に民家がないため、日頃は敷地内のデイサービスや特別養護老人ホームの方々との交流を行っている。また、地域の行事には積極的に出向き、商店街での買い物などでなじみの関係を作っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価および外部評価を、ケアの内容を見直す機会として理解している。全職員で評価を行い、ミーティングで内容をまとめて共有し、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催される運営推進会議では、入居者、御家族、地域住民代表、行政担当者などから様々な情報提供やホーム運営に対しての意見が出され、新たな取り組みへと活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者とは、運営推進会議以外にも、ホーム便りや行事案内を出したり、ホームの抱える問題に対して共同で取り組む機会をつくるなど、日頃から連携してサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	御家族へは、担当職員による日常生活についての個別報告書やホーム便りを郵送しているほか、面会時を利用して個別の報告も行っている。また、体調変化による病院受診の場合は、電話やFAXを活用して随時報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの入り口に意見箱を設置し、日頃から意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。また、面会や交流会の際は、職員の方から積極的に声をかけて御家族の意見を求めるように心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や異動は少なく安定しており、なじみの職員によるケアが継続して行われている。新たな職員が入職する場合は十分な引き継ぎ期間を設けており、入居者との関係づくりに配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修を中心に、年間を通して計画的に研修が実施されている。外部研修の受講も積極的に行われており、受講後は職員会議で発表し、報告書を配布するなどして共有を図っている。資格取得を望む職員に対しては、側面からの支援も行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区グループホーム協議会への参加や法人内の他ホームとの交流を通じて、ケア内容の振り返りや新たな取り組みに活かしている。	○	更なるサービスの質向上に向けて、地域の同業者との交流機会を持つことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームの説明を行うために出向いたり、御家族の協力を得てホームを見学してもらうなどして支援している。入居後も、御家族や友人の面会や、職員の頻回な声かけなどにより、徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から昔の話や調理、農業のことなどを教わり、同じ時間を楽しみながら、介護一辺倒ではなく、お互いに支え合う関係づくりに取り組んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや意向を把握するために、普段の生活での「つぶやき」を記録として残している。申し送り等を通じて職員全員が共有し、それらの内容についての討議を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者および御家族へのヒアリングを実施するほか、日常生活での「つぶやき」を介護計画に反映するように、御家族とも話し合いながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、まとめシートによる評価が実施され、定期的な介護計画の見直しが行われている。入居者および御家族の意向の変化、病状の変化によっては、その都度プランの変更が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要時には、通院や外出の支援が行われている。ホームで完結できない場合でも、地域のボランティアや法人としての機能を活かし、入居者や御家族の意向に添えるように柔軟な対応を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては入居者の意向を尊重しており、それぞれのかかりつけ医と連携を図っている。受診に同行して病状確認をしたり、対応についての助言を受けるなどして支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りについて、ホームとしての体制を説明している。状態に変化があれば、その都度かかりつけ医を含めた関係者間で、方向性や意思の確認および共有に努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	普段の関わりでの言葉づかいや対応方法については、十分に配慮しながら、日々のミーティングで振り返りがなされている。プライバシーに関する研修も実施されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールについては大まかに決められているが、なるべく入居者に選択してもらう機会を設け、その方らしい自由な生活を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを理解しつつ、バランスのとれたメニューを提供している。入居者と職員が共に食卓を囲んで食事を楽しんでおり、準備や後片付けにも、入居者の力量に合わせて参加してもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制をとりながら、時間帯や本人の状況、要望などを汲み取りながら支援している。入浴拒否のみられる方に対しては、声かけの方法やタイミングを工夫して促している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの生活の中で、入居者が得意とされていたことや興味を持たれていたことを、日常の場面で活かせるような工夫を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にホームの敷地を散歩したり、買い物へ出かけたりしている。また、月に1回程度は、外食や遠方へのドライブなど、なるべく戸外に出かける機会を多く持つように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出入り口は施錠されておらず自由に行き交うことができ、入居者も閉塞感を持たれている様子はない。職員もさりげなく見守りを行っており、出かけた意図のある方には職員が付き添っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の法定訓練に加えて、毎月自主訓練を行っており、災害への意識づけが行われている。協力体制については、併設施設や近隣に在住の職員に依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事および水分摂取量の目安を定め、毎食確認している。また、嗜好や健康状態に応じて代替食を提供し、体調が悪い場合でも十分なカロリーを摂取できるように支援している。献立内容については、法人の栄養士より助言を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、自然光の入る明るく開放的なリビングに、家庭で使われていた障子や畳で仕切られた落ち着いた空間があり、居心地良く過ごせる工夫がなされている。トイレや浴室、キッチンなどは、入居者に配慮された造りとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具類の持ち込みは少ないものの、壁の装飾や思い出の小物類があることで、それぞれの入居者にとって居心地の良い空間となっている。		